

# デジタルハリウッド大学

2023 年度 一般選抜 A 方式

## 国語 [60 分]

### 【 注 意 事 項 】

1. 試験監督の指示があるまでは、問題冊子は開かないこと。
2. 試験監督から指示があったら、解答用紙に氏名・受験番号を正確に記入し、受験番号マーク欄にも受験番号を正確にマークすること。
3. 試験開始の合図後、この問題冊子を開き、40 ページ(白紙ページ含む)揃っているか確認すること。
4. 乱丁、落丁、印刷不鮮明などがある場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
5. 解答は、すべて別紙の解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 試験開始から終了までの間は、試験教室から退出できません。
7. 不正行為を行った場合は、その時点で受験の中止と退室を指示され、同日受験したすべての科目の成績が原則無効となる。
8. 解答用紙は試験終了後、回収される。問題冊子は持ち帰っても良い。



第一問 次の小説の一節を読んで、後の設問に答えなさい。

「パパイヤ」と「ママイヤ」というハンドルネームの二人が十七歳の夏にSNSで知り合った。パパイヤは父親のことが大嫌いな、バレーボール部のエース。芸術家の母親に振り回されて育ったママイヤ（Ⅱ「わたし」）は、現在は高校に通っており、心を許せる友達もいない。交流するうちに通じ合うものを感じた二人は、直接会うようになり、夏の思い出のアルバムを作成している。次の文章は、いつも会うことにしている干潟で、二人が会話をしている場面である。

さつきから、低いところを遠回りに選びながら、わたしたちの前に海水が流れこんできている。波も届かず薄く張った水に南中した太陽の光が降りそそいで、一面、大きな鏡のように空を映す。何年もここにいるけど、こんなに美しく広い水鏡をつくるのは初めて見た。

「映えるってやつじゃない？」パパイヤも感心して、ゆっくりわたしの首元に目をやった。「今日はカメラ持ってないの？」

「うん」

「なんで？」

「今日は話をしに来たから。気が散っちゃうし、置いてきた」

「あんたって、よくわかんないところで自分に厳しいよね」

言い返したかったけど、思い当たるところもあつたから話を変えることにした。

「このアルバムのおまけにさー」わたしはおしまいまでページをめくった。「載せようとした写真があつて」

「へー」

「撮れなかったんだよね」

「何の写真？」

「部活の写真」

「は？」

「内房大会だっけ——の日に、会場行ったんだ。ズームできるちよつと本格的なカメラも持って」

「うそ、君津市民体育館？」

「そう。こっそり撮りに行ったの。わたしのいないところで、何？ 勝手に生きてるパイヤも見ておきたかったし、驚かせてやろうと

思っつて。一日目に勝つたのも、ちゃんとネットで結果を確かめてさ。そしたら、こっちは X 隠れて移動してたのに、試合見たら全然  
いないし。ベンチにも。もしかして、部活やったのってウソ？」

「ウソじゃない、ウソじゃない」と強く首を振る。

「だって、いなかったじゃん。学校もボロ負けだし」

「あーほんと」パイヤはこらえきれないという風に笑い出した。「ボロ負けか」

「あーほんとって、知らないの？」

「そのとき」笑いやまずに体を折って言う。「どこにいたと思う？」

「知るはずないじゃん、そんなの」

「ぜんぜんわかるようになってない、お互いのこと」

「確かに」すぐに (注) 富津公園での言葉を思い出せた。わたしは笑っていた。「で、どこにいたの」

「……」

「は？」

「ここで練習してた」

「何の？ バレーの？」

「そう」

「試合やってんのに？」

「あーちがう」パイヤは首を振って笑った。そして、「バレエ」と強調して言った。「バレエっていうかダンス、踊り」

「はー？」とわたしは大声を出した。「なんで？」

「部活」と言いながらスニーカーを脱ぐ。「やめた」と靴下にも手をかける。「大会の前に。所属してんのに出ないのは迷惑だから」混乱して言葉が出ない。そんなわたしをからかうような笑顔で裸足はだしになると立ち上がり、ますます磨きあげられたような水鏡の舞台を指さした。

「そこで踊ったら、きれいだと思うない？」

「言葉を理解する前にその予感が脳裏を走って鳥肌が立った。」

「ウチ、ダンサーになるから。なれるかわかんないけど、なることにするって、自分で決めた」

よくわからない言い方。しかも突然。ワケがわからないまま **Y** する心が記憶を差し入れて、言葉は案外すつと出た。

「悩んで、それだったの？」

「そう、自分だけの悩み」パイヤは手をついた膝を回しながら言った。「最初の踊り、あんたが見てよ」

「いいけど」思わず唾を飲んだ。「それを練習してたの？　どこで？」

「そう」ポケットからスマホを出していじり始めた。「いつあんたが来るかって」**Z**してたけど、まさか会場にいるとはね。うけるわ。あ、音楽流すから」

「スマホ、もう使えるんだ」

「復活した、さすがに」

「言つてよ」

「そっか、もうあんたも持つてんだ」

「そうだよ」

「でも、<sup>①</sup>言う必要ないじゃん、別に。約束なんかしなくても会えるし」

「まあ」最初はそこから始まったけど、わたしたちにはもうそんなに必要がないものかもしれない。」「そうだけど」

「ちよい待つてて」突っ立ったまま真剣に操作している。

「音楽つて『女の子は誰でも』？　あの、体育で発表するやつ？」

画面を睨<sup>にら</sup>んで無視。でも聞こえていないわけではない、多分。わたしは。パイヤの体に沿って視線を下ろし、<sup>iii</sup>この夏の紫外線を免れて初めて会った時の肌の色を残している足首から下を見つめた。そこに向かって重ねて訊<sup>き</sup>く。

「できた？」

「あれは一人で踊るやつじゃないから」そこで<sup>②</sup>パイヤはちよつと口<sup>③</sup>もつて、ぼそぼそ続けた。「あんたのために練習したやつ、やるから」

「わたし？」

パイヤはリュックを開けて、小ぶりのスピーカーを取り出した。

「えー、なんか大ごとじゃん」

「学校で練習してる時のやつ借りてきた。ここだと、これで流さないと聞こえないから。けど、今日は風ないから平気だったかも。まあいいや」

「あんま反響しないもんね、ここ」と言ってから訊く。「で、何の歌？」

「めちゃくちゃ椎名林檎しいなりんごが好きなのいるって言ったじゃん？」<sup>③</sup>心なしが早口になっているのは、静かに興奮しているからだわかった。

「その子に、なんか励まされる曲ないかって教えてもらってさ。ほんとには自分のためだったけど、聴いてるうちにあんたのことばっか思い浮かんだから、それで踊りも考えたりして、そしたら他のこと、全部どうでもよくなっちゃってさ」

「部活とか？」

「そう、なんかもういいやって。部の面倒なことウチが全部やって、みんなぜんぜん協力しないし。それで次のキャプテンやるのも当然みたいな感じで、なんかもういいやって。グループ作って意地悪したり、後輩にきつくあたったりさ、正直、付き合うの大変だったし」

「それで平気なの？」

「何が？」

「人間関係」

「誰が言ってるの？」

そこで、倒木の上に置いたスピーカーから大きな音が一瞬だけ鳴った。ちょっとびっくりしたわたしを無視してパイヤは続けた。

「前に、ウチらが同級生だったらみたいな話、ちよつとしたじゃん？」

「した」

「同じ学校にいたら友達じゃないーとかって」

「言った、そっちが」

「そう、言っちゃった。まあ実際そうだし。でも、それイヤで」

「仕方ないんじゃない？ 場所がちがえば自分もちがうでしょ」

「ウチもそう思ってた。あんたに会うまで」

「変わった？」とふざけて微笑<sup>ほほえ</sup>みかける。

「どこでどう生きてても、友達になりたくない？」

一瞬、何を言ってるかわからなかった。よく考えたらわかるし、ほんとに全くその通りだと思うけど、気付けば「もうなってるじゃん」と口に出していた。

「それはそうなんだけど、とにかく、<sup>④</sup>あんたが学校にいらなくても、自分が自分だつてこと忘れないようにしようって決めたわけ。そして自然とそういうことになった。つまりあんたのおかげ。ありがとう」

④ たたみかけるように言い終えた。パイヤを見つめながら、あんたのおかげ、と心の中で繰り返す。わたしのおかげ、と心の中で言い換えたらしつくり来なくて、あんたのおかげ、と今聞いた声を思い出す。ありがとうって、どうしていつも、パイヤばかりがそう言っているんだろう。それを言わなきゃいけないのは、わたしの方なのに。

「今、ウチの人生かなりいいかも」パイヤの白い歯がこぼれる。「ずっと踊ってるの」



「別に」遅い返事は素直にならなかった。「感謝されるようなことしてないけど」

「いや、あんたのおかげ」ぴしゃりと決めつけて、わたしにスマホを押しつける。「いいよって言ったら、好きなタイミングで再生押して。最初の音で動き出せるぐらいには練習したから」

そのまま堂々と水の舞台に出て行こうとする後ろ姿に⑥ほだされて、気付けば立ち上がって声を上げていた。

⑥わたしも

急いで全部伝えようとしたら後が続かない。口を結んでスマホに目を落とすと「人生は夢だらけ」と曲名が書いてある。震えて重たくなる視界に逆らって、顔を上げる。

「わたしのも」

それを言うのが精一杯だった。

「うん」

肩越しにそれだけ言うと、パイパイは静かに歩いて行って、水の上に立った。丈の足りないハーフパンツからのびた長い脚が、ぞっとするほどはつきり映る。上を向いて深呼吸して目を閉じ、それからゆっくり顎を引いた。

「いいよ」

再生の三角をタップすると、少し遅れて、スピーカーから息を吸う音。

大人になってまで胸を焦がして時めいたり傷付いたり慌ててばかり

歌声、それからピアノ。手が上がり、足が離れ、踊りだす身体。差した足先から広がる波紋、抜いた足から跳ねる水の玉。と時きらめく光になりかわった海がわたしの目にたまる。

奔放に広がったのもつかの間、見よう見まねのバレエでなめらかに基本ポジションに戻る足。誰に学んだわけでもなく、静かな空気を弄ぶように中指を先にして柔らかくしなる指先。歌に合わせた大きな跳躍と同時に遠くを回った脚線が、宙と水面に白くひらめいて視界を斬りながら降りてくる。

その身体と才能のめくるめく躍動に追いつこうとして高鳴る胸。わたしの胸。

——最近、ずっと踊ってたんの。

遅かれ早かれそうなったのかもしれないけど、わたしはこんなに楽しそうに踊ってられる場所へ、そう、いう状態に、ちよつとだけ早く、君を導いてあげられたんだろうか。もしそうなら、生まれて初めて、わたしはうれしい。

こんな肝心な時にカメラを持って来ていないぐらいだし、わたしにとって、写真がそういうものかどうかはわからない。それにどうせ、こんなにまばゆい光の中ではまともに写りはしないだろう。

でも、だから、せめてこの目に焼き付けたい。

あの人に愛して貰えない今日を正面切って進もうにも難しいがしかし

実感したいです 喉元過ぎればほら酸いも甘いもどっちもおいしいと

これが人生 私の人生 鱻腹味わいたい 誰かを愛したい 私の自由

この人生は夢だらけ

そこで一層高らかに鳴り響く音楽。

青く抜ける空を見上げて手を広げた。パイヤの顔は見えない。そしてまた、刻一刻と領域を広げて海になろうとする水の舞台で踊り始める。

わたしはきつと、ずいぶん前から泣いていた。

一夏に流した涙。みんなわたしで、信じられるわたし。

ピアノやトウシューズに始まって、数えきれないほど色んなものを置いてきてしまったけど、今ここにありあまるほどある。だから笑ってもいた。現れては消える海と太陽が時を織りなす、美しく汚くて寂しくて優しいこの場所で、夢のような歌と踊りがおひらきになって、どこからか届いた波が舞台を洗い始めるその時まで。

のりしろめうすけ  
(乗代雄介『パイヤ・ママイヤ』より)。

出題の都合上、本文中に一部変更した箇所がある)

(注) 富津公園での言葉——本文より前の部分でママイヤがパイヤに言った「こうやってどんどん知っていったらさ、会ってなくても、お互いが何してるか、みんなわかるようになるかも」という言葉を指す。

問 1 傍線部①の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① たたみかけるように

- ア 照れ隠しのように早口で
- イ 何のためらいもなく
- ウ 感情をこめて熱心に
- エ 口をはさむ暇いとまも与えず
- オ 自分に言い聞かせるように

問 2 傍線部②の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② ほだされて

- ア 情に引かれ、心を縛られて
- イ 共感し、心がうきうきして
- ウ 熱意を感じ、気持ちを動かされて
- エ 目を奪われ、動けなくなつて
- オ 思わず同情心をかきたてられて

問3 傍線部㉔の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ めくるめく

- |   |           |
|---|-----------|
| ア | 目が奪われるような |
| イ | あわただしいような |
| ウ | 目がくらむような  |
| エ | 理性を失うような  |
| オ | 興奮するような   |

問4 空欄X・Y・Zに入る表現の組み合わせとして適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア	X	うろうろ	Y	がっかり	Z	やきもき
イ	X	こそこそ	Y	わくわく	Z	ひやひや
ウ	X	ひっそり	Y	びっくり	Z	いらいら
エ	X	そわそわ	Y	うんざり	Z	はらはら
オ	X	こっそり	Y	うきうき	Z	のろのろ

問5 傍線部①「言う必要ないじゃん」とあるが、この発言からうかがえる内容の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 直接会って話す時間を多く共有してきたことで、文字を介して語り合う手間暇やタイムラグをお互い面倒だと思いはじめている。
- イ わざわざ約束したうえで会うことをパパイヤは他人行儀と考えているが、「わたし」にはまだ遠慮があるため不安に感じている。
- ウ 干潟に来れば会えるという安心感ゆえに、待ち合わせの時間を決めず好きな時に来ることが当たり前のようにになっている。
- エ SNSを通じて知り合ったのに、スマホでやりとりできないことを「わたし」は心配しているが、パパイヤは気にしていない。
- オ インターネット上での知り合いから毎日顔を合わせる同級生のような関係に進んでいるが、互いにまだ心を許しきれていない。

問 6 傍線部②「パパイヤはちょっと口ごもって、ぼそぼそ続けた」、傍線部③「心なしか早口になっている」とあるが、この間のパパイヤの様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア ダンサーになりたいという思いを誰にも言えずにいたが、椎名林檎の曲を聴きながらダンスの練習に打ち込むと決意した時のことを思い出して気持ちが高ぶっている。

イ 音楽の準備をすることに気を取られながらも、バレエボール部をやめた理由を話そうか迷ったが、部活がどれほどストレスだったかを思い出して気分がふさぎ始めている。

ウ これから流す音楽は「わたし」一人に見せるために練習したダンス用のものと白状したことに照れて、それを隠そうとどンドンぶつきらぼうになっている。

エ 椎名林檎の曲を聴いているうちに励まされる気持ちになったことを「わたし」とも共有したいと願っているが、早くダンスを見せたい気持ちをごらえきれなくなっている。

オ 「わたし」のために練習した特別なダンスだと伝えるのは少し気恥ずかしかったが、なぜそう思うようになったのかを順を追って話そうとして、思わず意気込んできている。

問7 傍線部④「あんたが学校にいらなくても、自分が自分だってこと忘れないようにしようって決めた」とあるが、それはどういうことか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「わたし」が同じ学校にいてくれたらよかったと考えたこともあったが、学校が同じかどうかには関係なく、ずっと「わたし」と友達でいたいと思うようになったということ。

イ 「わたし」に頼ることなく自分で部活をやめる決断ができたことを誇らしく思うと同時に、これからも自分でできることはしていこうと前向きな気持ちになっているということ。

ウ 親に反発して「パパイヤ」「ママイヤ」というハンドルネームをつけたという共通点はあっても、同級生として出会っていたら友達にならないと思ったことを反省しているということ。

エ 置かれた環境や場面に応じた役割を演じるために自分の本心に蓋をしていると気づき、気持ちに寄り添ってくれる「わたし」がいないところでも自分に正直であろうと考えたということ。

オ 学校生活ではこれまで我慢ばかりしていたが、学校に行かずに自由に過ごしている「わたし」のことを思うと、自分だけが犠牲になって我慢する必要はないと気付いたということ。



問8 傍線部⑤「わたしも」とあるが、この時の「わたし」はパイパイに何を伝えたかったのか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「わたし」のおかげでダンスに打ち込む充実感を知ったと笑うパイパイに対して、感謝されるようなことはしていないとそっけない返事をしてしまったことを謝罪したいということ。

イ パイパイは「あんたのおかげ」と言ってくれたが、自分の人生がかなりよいのはパイパイのおかげであり、自分の方こそパイパイに感謝しているということ。

ウ なれるかどうかはわからないダンサーになるという目標を諦めないと宣言したパイパイに対して、自分も現状から一歩踏み出すつもりであるということ。

エ 「人生は夢だらけ」という曲のタイトルを見て、ダンスに懸けようと決めたパイパイのように、自分も人生に対する夢を実現させたいという気持ちであるということ。

オ 今まで打ち明けられなかった自分だけの悩みに決別し、最初の踊りを「わたし」に見てほしいというパイパイのことを、自分も全力で応援するつもりであるということ。

問9 傍線部⑥「だから笑ってました。」とあるが、それはなぜか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「わたしのおかげ」と言い換えてみた時にはそんなことはないかと否定したくなったが、楽しそうに踊っているパイパイはきらきらして、彼女が心を解放するうえで自分が少しでも役に立ったのであればうれしいと、心から思えたから。

イ ピアノやトウシューズに始まって、色んなものを失って泣いてばかりいた「わたし」だが、水鏡のような舞台上で踊っているパイパイを見ていたら、どんなものと引き換えにしてもいいと思えるほど貴重な友達を得たという気持ちになったから。

ウ 「人生は夢だらけ」という曲の歌詞に「今、ウチの人生かなりいいかも」というパイパイの言葉を重ねて、彼女と出会う前は自分のことを信じられなかった「わたし」でも、変わっていきけるかもしれないという希望を抱くことができたから。

エ ダンサーになりたいという夢をかなえようとしているパイパイに比べて、肝心な時にカメラを持って来ない自分はカメラマンになりたいという夢と真剣に向き合っているとはいえないが、焦ることはないと思うことができたから。

オ ダンスに集中しているパイパイが全身でのびのびと喜びを表現しているのを見て、感情をうまく表現できない自分もまたいつのまにか素直になっていることに気づき、彼女と知り合えたこの夏への感謝の思いが込み上げてきたから。

問 10 本文の表現についての説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 波線部ⅰ「今日は話をしに来たから。気が散っちゃうし、置いてきた」は、パイヤがバレーボールの試合会場にいなかったことに疑問を感じ、アルバム作りよりも話をするを優先した「わたし」の心中を想像させる表現である。

イ 波線部ⅱ「言葉を理解する前にその予感が脳裏を走って鳥肌が立った。」は、薄く張った水に太陽の光が降りそそぎ、広く輝く水鏡に空が映る美しい光景の中で踊るパイヤの姿を瞬間的に想像し高揚するさまを印象的に描写している。

ウ 波線部ⅲ「この夏の紫外線を免れて初めて会った時の肌の色を残している足首から下を見つめた」は、二人が初めて会ったのが夏前であることに触れながら、パイヤの日焼けした肌と白い素足のコントラストを視覚的に伝える効果を上げている。

エ 波線部ⅳ「ほんのひととききらめく光になりかわった海がわたしの目にたまる。」は、水鏡のような干潟のステージで生き生きと踊るパイヤのきらめきとともに、その姿に感動して涙ぐんでいる「わたし」の様子を効果的に暗示している。

オ 波線部ⅴ「刻一刻と領域を広げて海になろうとする水の舞台で踊り始める」は、満潮時が近づいても一心に踊り続けるパイヤと、その姿を目に焼き付けようとする「わたし」を描き、これから先の二人の運命を予感させている。

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

直近の100年間は、論理的思考力が最も評価された時代でした。偶然のように思える現象を、テクノロジーの力を借りて論理に落としこむ。誰でも理解可能にする。各分野の専門家や研究者は、あらゆる場面でこういう努力を重ねてきました。

経営・金融・組織・人事・営業などの職種でも、現場では論理的に考えて整理・予測・行動することが求められます。そこでは、論理を味方にできた人々が大きな力を得てきました。

しかし、すべての産業に当たり前のように論理的思考力が求められるようになった結果、①論理的思考力だけでは価値を發揮することが困難な時代になってしまったのです。

現代は、Volatility（不安定さ）・Uncertainty（不確実さ）・Complexity（複雑さ）・Ambiguity（不明確さ）の頭文字を合わせて「VUCAの時代」と呼ばれます。この流れは、エントロピーのように不可逆です。グローバル化とテクノロジーの進化が加速していけばいくほど、VUCAの傾向は強まっています。

ただしVUCAの傾向が強まれば強まるほど、生態系は威力を發揮していくでしょう。なぜならば、生態系とは、複雑で不安定で不確実な環境でこそ、本領を發揮するからです。外部環境や内部環境が激しく変化しても柔軟に適応し、同一性・恒常性を維持し続けられる。これが生態系の構造なのです。

喩えるならば、生態系とは「あらゆるものが流されていく濁流の中で、流されずに勢よく回り続ける水車のような存在」とでもいえるでしょうか。

今後さらにグローバル化とテクノロジーの進化が加速していくと、物事を論理的に整理して改善していくだけでは足りず、世界と人

間の普遍的真理を土台にした生態系を創り出す能力があらゆる場面で求められてくるはず。 ( I )

目の前の事象を、客観的な事実に基づいて分析した上で将来を予測する。最も成功確率の高いアクションを考えて実行する。これが論理的思考力です。「さまざまな出来事を抽象化した上で、具体的なアクションとして現実世界にフィードバックしてあげる」と言い換えることもできます。

論理的思考というのは現代社会では基本スペックになっていますが、それ以前の人間からしたら魔法のようなスキルです。

しかしながら、人間が当たり前のように論理的思考力を扱うようになれば、<sup>②</sup>さらに複雑で難易度の高い力が求められるようになります。

生態系を創るためには、現実世界の構造を理解した上で、概念として同じものを再現してあげなければなりません。現実世界の構造をまるごと再現する生態系構築力は、現実世界を分解して、その一部を改善する論理的思考力の上位<sup>③</sup>ゴカンのようなスキルです。

今後生態系を創る能力は、「世界を変えたい」という特殊な願望をもつ人だけでなく、組織のリーダーになるような人には当たり前に求められてくる素養になるはず。す。

ここまでは「世界」という言葉を「生態系としての世界」という意味で使ってきました。本章を結ぶにあたり、「空間としての世界」を創る話にも改めて触れます。

インターネットの普及によって、かつて人々の認識の中だけにあった「概念としての世界」を、PCやスマホの2次元の画面上で手軽に可視化できるようになりました。私たちはSNSやWEBサービスを通じて、多種多様な生態系が成り立っていることを一目で認識できます。

今後は5Gや6Gの普及によって、現在の数十倍から数百倍の通信速度が実現するでしょう。VRや3DCGが普及すれば、「空間と

しての世界」をバーチャルに誰でも創り出すことができるようになります。

バーチャル空間上で、現実世界と違和感のないレベルで生活できるようになれば、「世界を創る」とは文字どおり現実そっくりの「生態系」と「空間」を創るという意味に進化していくのです。(Ⅱ)

ここからさらに先の未来へと、思考を伸ばしてみましよう。今後は5G↓6G↓7G…とどんどん通信環境が改善していき、コンピュータの計算力もどんどん上がっていきます。すると従来では動かせなかったクオリティのグラフィックを、リアルタイムでストレスなくさくさくと操作できるようになるでしょう。(Ⅲ)

次に示す映像(省略)は、私が個人的な実験として作ってみたものです。衛星から取得した地球観測データに機械学習をかけて、AIに地上の3Dモデルを自動生成させました。東京都心の某所の再現映像です。映像の中に、実在物は一つも含まれていません。すべてがAIと3DCGによって作られたバーチャルな映像です。

衛星から取得した地上の静止画像、DEM (Digital Elevation Model) 数値標高モデル、DSM (Digital Surface Model) 数値表層モデル)に機械学習をかけて、地上の構造物を自動検出します。(注)アルゴリズムに基づいて、地上の3Dモデルを自動生成するのです。

さらに3DCG技術を用いて石やガラス・鉄や植物などの質感を自動的に再現し、それらを一つのシステムとしてつなぎ合わせました。実験段階なのでまだ<sup>⑥</sup>セイドは低いですが、理論上は衛星から観測できる範囲であれば、世界中のあらゆる景観を自動生成することも不可能ではありません。

ここからさらにAIに現実世界のあらゆる情報を学習させて、バーチャル空間に世界を再構築していきます。その世界の3Dモデルを、誰でも使えるように無料で配布していく。これが今私が思い描いている近未来のビジョンです。

こういった技術が誰でも利用できるようになれば、今まで何十人・何百人というクリエイターとエンジニアが集まって数カ月がかり

で作っていた3DCGの映像作品を、個人が無料で簡単に作れるようになるでしょう。

さらにVRなどのデバイスも普及すれば、まるでSNSのアカウントを作るように、手軽に現実と錯覚するクオリティの仮想世界を創ることができます。

そこに友達を募って、日常的にさまざまな活動を展開していけるようになるのです。映画『マトリックス』や『レディ・プレイヤー1』の世界観は、すぐそこまで近づいています。

(注2) ブロックチェーンの技術を使えば、バーチャル空間上のアセット(財産)に希少価値をもたせ、(注3)メタバース上で自分が作ったものを価値(お金)に変換することができるようになるでしょう。(Ⅳ)

小さいころからYouTubeを見て、『Fortnite』で遊んで育った次の世代にとっては、Unityなどのゲームエンジンを使いこなし、自分の好きな仮想世界を創って友達と遊ぶことなんて朝飯前になるはず。才能がある子どもは、現在のハリウッド映画のような映像を個人でサクッと作り、大人を驚かせるようになるでしょう。

私を含めた現代の大人世代は、まだネットが存在せず、唯一の世界だった物理空間を奪い合っていた時代を知っています。そのため私たち現代人には、**X** 思考の癖が染みついているのです。

派閥に分かれ、いがみ合って領土を奪い合い、自分たちと考えが違う人たちを攻撃して白黒決着をつけようとする。唯一無二の「土地」という物理世界の奪い合いを人類は何千年にもわたって繰り返してきました。

しかし無限に広がる仮想空間で世界を自由に創れば、世界はたった一つの物理空間ではありません。世界は何層も重なり合い、多元的に並存するものです。それぞれの生態系は過剰に干渉しすぎることなく、多様な生態系が広がっていくでしょう。

多様な世界を普通に受け入れられるメタバース・ネイティブ世代が社会のメインになっていけば、従来は白い目で見られてきた「マイ

ノリテイ」と呼ばれる人たちの社会的地位はどんどん向上していきます。

「マジョリティとマイノリティが対立する必要なんて全然ない。違う世界は並存できるのだ」という思考が、当たり前前の価値観になっていくはずです。

物理学における宇宙の仮説の中に「マルチバース(多元宇宙)」という概念があります。これは私たちの住む物理的な宇宙は一つではなく、複数の宇宙が並行して存在しているという考え方です。

( V )

複数の「世界」が並行していくつも生まれ、それぞれの世界に合わせて個人が複数の「人格」を使い分けていく。未来社会では、こうした振る舞いが一般的になっていくかもしれません。現状ですら、人々は現実世界とSNSの人格を使い分けています。TwitterやInstagramなど、人はSNSごとに違うキャラクターを演じるものです。

「Individual」という単語は、否定を意味する「in」と分割可能な「dividual」を合わせて「これ以上分割できない最小単位の存在＝個人」を指します。

ただ、これからは個人も複数の世界にまたがり、複数の人格を使い分けていくのが当たり前になる。<sup>④</sup>「Individual(個人)」という単語は、語源とは違った意味で使われるようになるはずだ。

テクノロジーは現実世界を便利にするだけでは飽き足らず、世界そのものを創り出せるまでに進化し、社会や人間の再定義を求め始めるほど大きな存在になりました。これからは、人間の想像力と創造力が無限に拡張される時代に突入していくでしょう。

人間が「空間としての世界」をどのように見ているのか。何にリアリティを感じて、何をフェイクだと感じるのか。これは生態系を設計するのと同じくらい興味深いテーマであり、日々気づきと発見の連続です。



「世界を創ろう」と考えなければ、自分がこの世界をどんなふうに見ているのかなんて全く気になりませんでした。自分の知りたいことは、実は自分の認識の中にあった。まさに「灯台下暗し」です。

生態系と空間の2つを<sup>⑥</sup>ユウゴウして、私たちが住むこの物理世界よりも魅力的な仮想世界を創り出せるようになったとき、どんな未来が待っているのか。

そこに至るまでの過程を、私は全力で楽しみたいと思うのです。

(佐藤航陽『世界2・0 メタバースの歩き方と創り方』より)

出題の都合上、本文中に一部省略・変更した箇所がある)

(注1) アルゴリズム——問題を解決するための計算方法や手順のこと。

(注2) ブロックチェーン——仮想通貨の取引記録をネット上で管理するために生まれた概念。暗号技術を用いてデータをブロック単位で管理し、鎖のように連結させて、多数の参加者に同一のデータを保持させることで不正な改ざんを防止する。

(注3) メタバース——インターネット上に構築された三次元の仮想空間、およびサービスのこと。

問 11 傍線部①に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① コカ

- ア 不<sup>レ</sup>退<sup>レ</sup>転<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>ク<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>で<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>当<sup>レ</sup>た<sup>レ</sup>る  
イ コ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ョ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>だ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>泣<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>る  
ウ コ<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>ジ<sup>レ</sup>ュ<sup>レ</sup>ツ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>習<sup>レ</sup>う  
エ 役<sup>レ</sup>員<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>で<sup>レ</sup>決<sup>レ</sup>定<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>る  
オ 時<sup>レ</sup>代<sup>レ</sup>サ<sup>レ</sup>ク<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>甚<sup>レ</sup>だ<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>い

問 12 傍線部②に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② セイ

- ア セ<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ケ<sup>レ</sup>ツ<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ー<sup>レ</sup>ツ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>替<sup>レ</sup>え<sup>レ</sup>る  
イ 全<sup>レ</sup>国<sup>レ</sup>大<sup>レ</sup>会<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>夢<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>叶<sup>レ</sup>え<sup>レ</sup>る  
ウ セ<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ジ<sup>レ</sup>ツ<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>柄<sup>レ</sup>で<sup>レ</sup>信<sup>レ</sup>頼<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>る  
エ 日<sup>レ</sup>程<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>チ<sup>レ</sup>ョ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>る  
オ 乗<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>越<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>料<sup>レ</sup>金<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>セ<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>サ<sup>レ</sup>ン<sup>レ</sup>す<sup>レ</sup>る

問 13 傍線部㉔に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ ユウゴウ

- |   |                           |
|---|---------------------------|
| ア | 開店資金を <u>ユウ</u> ズウする      |
| イ | 町おこしの一環で企業を <u>ユウ</u> チする |
| ウ | 一刻の <u>ユウ</u> ヨも許されない事態   |
| エ | <u>ユウ</u> シヨウ候補との呼び声が高い   |
| オ | ヨ <u>ユウ</u> のある旅程を組む      |

問 14 次の一文は、本文中の（Ⅰ）～（Ⅴ）のうちどの部分に付け加えることができるか。適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

これと同じように、人間の認識上の世界も、多種多様に広がっていき、並行で重なり合いながら無限に拡張していくでしょう。

- ア（Ⅰ） イ（Ⅱ） ウ（Ⅲ） エ（Ⅳ） オ（Ⅴ）

問 15 傍線部①「論理的思考力だけでは価値を發揮することが困難な時代になってしまった」とあるが、それはなぜか。その説明として適当な

ものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア すべての産業において、テクノロジーの力を借りて現象を論理に落としこむという論理的思考力が求められてきた結果、論理的思考力は平凡な能力になってしまったから。

イ グローバル化とテクノロジーの進化が加速していく中で、物事を論理的に整理して改善していくだけでは、複雑で不安定で不確実な状況を乗り越えることはできないから。

ウ インターネットの普及によって「概念としての世界」が可視化できるようになった現在、論理的思考力に代わって「空間としての世界」を創り出す力が必要になったから。

エ 具体的なアクションを現実世界にフィードバックする論理的思考力は、現実世界が単一であった時代には通用しても、多種多様なバーチャル空間には対応できないから。

オ 不安定で不明確な「VUCAの時代」には、環境が変化しても柔軟に適応する生態系としての世界が求められるが、そのためには論理的思考力以上に生態系を創る能力が必要になるから。

問 16 傍線部②「さらに複雑で難易度の高い力」とあるが、それはどのような力か。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア テクノロジーの力を借りて現象を論理に落としこむだけでなく、不安定さ、不確実さ、不明確さの傾向が強まっていく中で、テクノロジーの進化をより促していく力。

イ 客観的な事実に基づいて目の前の事象を分析し将来を予測するだけでなく、現実世界の構造を理解した上でまるごと再現した多種多様な生態系を構築する力。

ウ 環境におけるさまざまな出来事を抽象化した上で、最も成功確率の高い具体的なアクションを、誰もが理解可能な形にして現実世界にフィードバックしていく力。

エ VRや3DCGのさらなる進化を受けて、現実世界と全く同一と感じられるほど違和感なく生活できるレベルの再現度をもつバーチャル空間を創り出す力。

オ Unityなどのゲームエンジンを使いこなし、現在のハリウッド映画のようなクオリティの映像を個人で作り上げ、メタバース上でお金の交換することができる力。

問17 傍線部③「私が個人的な実験として作ってみたもの」とあるが、それはどういうものか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 衛星から観測した映像を再現して3D化したものであり、5Gや6Gの普及により通信速度が飛躍的に向上したあかつきには世界中のあらゆる景観を自動生成できるようになることを目指しているもの。

イ 衛星画像に機械学習をかけて自動検出した地上の構造物であり、3DCG技術を用いて建造物や植物の質感まで忠実に再現したバーチャル空間に世界を再構築していくことを目標としているもの。

ウ 衛星から取得したデータをもとにAIが再現した地上の景観の映像であり、自動生成技術を誰でも利用できるようにすることで個人が簡単に3DCGの映像作品を作れるようになることを目的としているもの。

エ 3DCG技術を用いて再現した3Dモデルであり、実験で得られた複数のモデルをシステムとして結合させ、バーチャル空間上のアセットとして希少価値をもたせることをゴールとしているもの。

オ AIと3DCGによって作られたバーチャルな映像であり、将来的にはSNSのアカウントを作るように手軽に「生態系」と「空間」を創ることができるようになることを志向しているもの。

問 18 空欄  X に入る表現として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア バーチャル空間を虚構にすぎないとする
- イ 弱肉強食こそが生存戦略だと考える
- ウ 目に見える人間関係だけに固執する
- エ 何かを2つの対立構造で考える
- オ 無から有を生み出そうとする



問 19 傍線部④『individual (個人)』という単語は、語源とは違った意味で使われるようになる」とあるが、どういうことか。その説明とし

て適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 「individual (個人)」という単語は、否定を意味する「in」と分割可能な「dividual」を合わせた語だが、複数の「世界」が並行して生まれるような時代になれば、分割できない存在としての個人を表すようになるということ。

イ 「individual (個人)」という単語は、本来、不可分な単一の存在としての個人を表すが、多様な世界ごとに異なるキャラクターを演じ分けることが普通になれば、複数の人格の集合体としての個人を表すようになるということ。

ウ 「individual (個人)」という単語は、それぞれ異なる個性をもつ一人の人間という意味を表すが、「マルチバース (多元宇宙)」という概念が一般的になれば、複数の人間が並行して存在する世界を表すようになるということ。

エ 「individual (個人)」という単語は、「これ以上分割できない最小単位の存在」という意味を表すが、現実世界が多種多様に複雑化していけば、人間関係ごとに生じる人格にさらに細かく分かれるようになるということ。

オ 「individual (個人)」という単語は、代替不可能な唯一の存在としての個人を表すが、複数の「世界」が並行して展開するようになれば、それぞれの世界において価値をもつ個人として存在するようになるということ。

問 20 本文の内容に合致するものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 濁流のような激しい情勢変化の中でも流されることなく同一性を維持し続けるためには、生態系の理論を日常生活に取り入れることが必要で、今後組織のリーダーにはそうした危機意識が当然のように要請される。

イ これまでテクノロジーは効率的で便利な文明を手に入れるために存在していたが、今や生態系と空間が結合した魅力的な現実世界を創り出す方向へと進化し、人間の認識や価値観をも変化させるまでになった。

ウ インターネットが存在する世界になって生まれた子どもたちは、現実世界そっくりの仮想空間を創造できる能力をもつため、大人を驚かせるようなハイクオリティの映像作品を簡単に作り出すようになるだろう。

エ 自然にメタバースと触れ合える環境で育った世代が社会の中心となり、多元的に並存する世界を当たり前前に受け入れるようになれば、マジョリティとマイノリティが対立する必要のない世界となっていくだろう。

オ 非科学的・非合理的な前近代社会では身につけようもなかった論理的思考力が現代では最も評価されているが、誰もが小さいころからテクノロジーを駆使する時代が到来すれば論理的思考力は不要になっていく。

第三問 次の設問に答えなさい。

問 21 次の文に含まれる意味を表現している四字熟語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

いろいろなことを考慮に入れようとするあまり、結果的につじつまの合わない言動になってしまった。

- ア 八方美人
- イ 自家撞着どうちやく
- ウ 多岐亡羊
- エ 二者択一
- オ 首尾一貫

問 22 次の故事成語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

蝸牛角上かぎゅう

ア 取るに足らないつまらないもの。

イ 柔らかくとらえどころのないもの。

ウ 絶対に存在しないはずのもの。

エ 非常に長い時間がかかるもの。

オ 小さくとも意地をもっているもの。

問 23 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

WEBサイトのユーザー側のインターフェースを改善して、使いやすさを向上させる必要がある。

- ア 人間がコンピュータに指示を与える際の手順。
- イ 特定のサービスを受けるために必要なセキュリティ。
- ウ 複数の異なるものの中で情報をやりとりする接続部分。
- エ 利用者が操作したときの機器側のリアクション。
- オ 間違った操作をしてもエラーを回避するシステム。

問 24 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

大きな災害の遺構の保存に関して、風化しないよう語り継いでいくべきだが早く忘れてしまいたくもあるという、アンビバレントな状況が生じるのはもつともなことである。

- ア 相反する二つのことの板挟みになってどちらとも決めかねる状態。
- イ 一見正しいように見えるがよく考えると間違っているという状態。
- ウ ささまざまな意見をもつ人が多くいて合意を得ることが難しい状態。
- エ 無意識のうちに抑圧されていた感情があふれ出てしまった状態。
- オ 一つの物事に対して相反する二つの感情を同時に抱いている状態。

問25 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

より多くの人々が活躍できる社会にしてゆくには、高齢者や障がいをもつ人などの社会的弱者が他の人と一緒に生活できるように、社会基盤や福祉を充実させる必要があるが、この  が思うように進んでいないという現実がある。

ア ライフサイクル

イ アカウンタビリティ

ウ ケアマネジメント

エ パターナリズム

オ ノーマライゼーション

